

ローカル鉄道は「残す」から「生かす」時代へ

～ 地域・市民が鉄道にどのように関わるか ～

国鉄から第三セクターに転換して30年あまり、北条鉄道は地域の鉄道として、今も走り続けています。自動車を中心とした生活の中で、少子高齢社会が到来し、ローカル鉄道は、従来の価値観のまま「残す」ことが、とても難しい環境に置かれています。

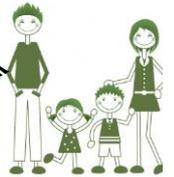
各地で議論されているローカル鉄道の存続問題は、鉄道の持続可能性だけでなく、地域の持続可能性と直結する重要なテーマでもあります。ローカル鉄道は、地域になくってはならない役割を果たしていますが、残念ながら、その効果は正しく認知されていません。これからは、地域や市民がさまざまな形で鉄道を「生かす」ことで、新たな価値を付加し、自治体や鉄道会社と市民が役割分担をしながら、ともに歩いていくことが大切です。

北条鉄道のこれからについて、地域のこれからについて、ぜひ一緒に考えてみませんか？

日時 平成29年9月23日(土) 18時～20時30分

場所 加西市地域交流センター 多目的ホール

加西市北条町北条28番地1 アスティアかさい3階



加西まち活ゆめ広場

第1部 基調講演 「地域再生とローカル鉄道」

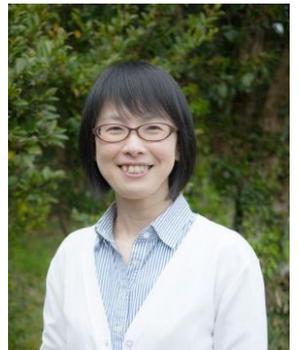
講師 田中 輝美 氏

第2部 パネルディスカッション 「ローカル鉄道を生かす」

パネリスト 田中 輝美 氏 (ローカルジャーナリスト)

山田 和昭 氏 (津エアポートライン シニアエキスパート)
(若桜鉄道(株) 前社長)

高井 均 氏 (北条鉄道(株) 取締役総務企画部長)



参加費 無料

お申込方法 氏名・住所・連絡先を電話もしくはメールで事前申し込み (先着90名)

加西市観光まちづくり協会 電話 0790-42-8715 (平日17時まで)

メール kyokai@kanko-kasai.com

主催：加西市観光まちづくり協会 共催：加西市・北条鉄道(株)

田中 輝美(たなか てるみ)氏



ローカルジャーナリスト。島根県浜田市出身。

大阪大学人間科学研究科修士課程修了。

山陰中央新報社に入社し、ふるさとで働く喜びに目覚める。報道記者として、政治、医療、教育、地域づくり、定住・UI ターンなど幅広い分野を担当。琉球新報社との合同企画「環（めぐ）りの海-竹島と尖閣」で2013年日本新聞協会賞受賞。2014年秋、同社を退職して独立、島根を拠点に活動している。

著書に『未来を変えた島の学校-隠岐島前発ふるさと再興への挑戦』（岩波書店）『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』（ハーベスト出版、第29回地方出版文化功労賞受賞）『ローカル鉄道という希望-新しい地域再生、はじまる』（河出書房新社、第42回交通図書賞奨励賞受賞）など。一般社団法人・日本ジャーナリスト教育センター（JCEJ）の運営委員も務める。

山田 和昭(やまだ かずあき)氏



津エアポートライン シニアエキスパート（若桜鉄道 前社長）。

東京生まれ。早稲田大学理工学部工業経営学科卒。

外資系IT企業を退職後、2012年に由利高原鉄道のITアドバイザーに就任。その実績を元に、地域鉄道の業務支援を行う合同会社日本鉄道マーケティングを設立。2014年には若桜鉄道の公募社長に応募し、就任する。「若桜谷観光号」「お買い物列車」「SL走行社会実験」「ラッピング列車」など、次々と新規プロジェクトを手がけ、若桜鉄道沿線地域の活性化に貢献し、2017年6月退任。2017年7月より現職。

著書に『希望のレール 若桜鉄道の「地域活性化装置」への挑戦』（祥伝社）。

高井 均(たかい ひとし)氏



北条鉄道㈱ 取締役総務企画部長。加西市出身。

加西市の伊東電機㈱を2010年に定年退職。

2011年8月、北条鉄道㈱に入社。

2011年6月に、北条鉄道㈱の社長に就任した西村加西市長が、民間の経営発想によって北条鉄道の再生を目指すにあたり、加西市出身で川崎重工業㈱の代表取締役副社長を務めた経歴を持つ佐伯武彦氏（現北条鉄道㈱副社長）とともに、その任に就くことになる。

再生に向けた取り組みとして、過去5年間の駅周辺（トイレ、駅舎、三重塔、石庭など）を、市内外の企業や個人からの寄付を募り整備したり、ボランティア駅長や市民の協力のもと様々なイベントや活動を行ったりするなど、地域と一体となってローカル鉄道を支える体制作りを行ってきた。それらの取り組みが評価され、新聞、テレビ、雑誌などに取り上げられ、市外からの観光客が増えている。